

横越町の歩んだ道を調べてみよう

# 横越歴史探訪 11

## 純農村からバランスのとれた産業構造へ転換が進む横越町

### 川の恵み

豊かな自然を残している阿賀野川と小阿賀野川。それらに囲まれた横越町は、水産資源に恵まれた地域としても有名です。

古くから阿賀野川では鮭を中心にサクラマス、ナマス、ウナギ、イサザ、コイ、イトヨ、カニ、エビなど、田んぼの堀ではドジョウなどが主に捕れていました。



昭和30年代の鮭漁

現在では、鮭やサクラマス、カニ、シジミなどが横越を代表する川のおいしい恵みとして親しまれています。

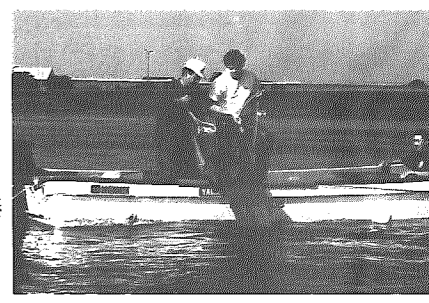
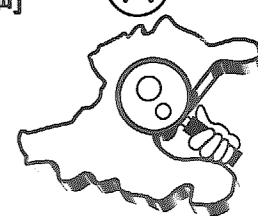
### 鮭

江戸時代の横越は鮭の産地として有名で、新発田藩に鮭を献上することも度々でした。

現在、鮭・鱒漁は漁協に加入している人が個人単位で行っていますが、以前は網元が多くの人を雇い、地引き網によって行っていました。

鮭料理は当町の自慢です。10月から12月の3か月間漁が解禁され、阿賀野川をのぼってくる鮭を網で捕っている漁師さんの姿は、季節の風物詩となっています。

阿賀野川の鮭は、海からさかのぼって、ちょうど横越町あたりへ来たところが、一番身が締まってうまくなるとの評判で、頭からしっぽまで余すところなく使った鮭づくしの料理を味わおうと、新潟市周辺をはじめ、遠くからもこの



早朝から行われているしじみ漁

味を求めて来る人で賑わいます。一時期漁獲量が減ったこともあり、漁協関係者が20年以上前から毎年稚魚を放流し、地道な努力をしてきた結果、年々その数は増えているそうです。

### しじみ

阿賀野川のしじみは、一般に売られているものと比べ、肉厚で大きく、おいしいと評判です。7月から9月上旬まで、漁師は「じょれん」という重い金網のような道具を川底に沈めて、舟で力強く引っ張り、丸々と大きく育ったしじみを探っています。阿賀野川では、河口から横越までが獲れる水域の中心となっています。

### 川ガニ

川ガニは、モクスガニ、ケガニなどと言われ、甲の幅は5センチ

### 商業

旧国道49号は、メインストリート「横雲通り」として歩道が整備され、毎晩ライトアップされ、多くの人たちから親しまれています。メインストリート沿いにある中央商店街は、町の商業の中心となっっています。

新潟圏域内で地元購買率が下位にあった横越町は、近年、川根町、茜ヶ丘、いぶき野を中心に大型店が出店したこともあって、地元で買い物をする割合が上昇してきました。

### 工業

昭和37年以降、従業員数10人以上の事業所・工場が次々と村内へ進出し、地元には経済効果は大きなものでし



北方文化博物館大広間からの美しい眺めを楽しむ観光客たち

た。

平成2年には、木津工業団地が造成され、次々と企業が進出。横越町は県都新潟市から非常に近く、道路網の整備も進み、労働力や自然環境にも恵まれた工業地としての条件を備えており、多くの企業の進出は、たくさんの方の雇用につながっています。

また、工業団地以外の地域にも、大小工場や企業等が操業しており、横越町の産業発展に大きく貢献しています。

### 戦前は全国有数の大地主 現在は北方文化博物館

江戸時代に発達した日本の地主制度は、明治から大正にかけて全盛期を迎えました。明治維新以降、土地の永代売買許可が行われて所有権が私有化されたことにより、農村にも資本主義下の経済体制ができてきました。そこで資本力により土地の拡大、生産の拡充を図る人々、大地主が現れてきました。

現在文化施設となっている北方文化博物館は、伊藤家の公開記録によれば、昭和19年の所有田畑は約1,372町歩(約14km<sup>2</sup>)、山林約715町歩(約7km<sup>2</sup>)で県下一、全国でも有数の巨大地主でした。さて、戦後、占領政策の一つ



昭和56年2月、美浦村役場にて調印。

として農地解放が行われまし

た。昭和22年から農地改革が開始され、昭和25年に完了しました。横越では、農地開放以前、小作地は820町歩あり、農家戸数876戸のうち、自作農家はわずか218戸でしたが、農地解放後、小作であった人々は次々と自作になっていきました。

戦前から博物館構想を抱いていた七代伊藤文吉氏は、戦後ただちに、進駐軍のラルフ・ライト中尉などの協力を得て博物館を設立。館内には、歴史を感じさせる広大な邸宅、庭園、戦前・戦中に収集された東西の古美術品、地主時代の帳簿などの貴重な史料が数多く公開され、豪農の暮らしや文化を今に伝えています。毎年多くの観光客が訪れています。

ほど、体全体は緑がかつた茶色で、はさみが毛で覆われているのが特徴です。海から上ってくる9月から11月頃に阿賀野川や小阿賀野川で捕れます。「かにづつ」といわれる籠状のしかけにえさを入れ、川の中に沈めておき、約1晩たつてから引き揚げます。

### 商工業

高度経済成長後、農村の変貌や人口の都市集中化の影響で、横越村にも商工業者が増加。昭和49年に横越村商工会が設立され、加盟商工業者の育成に努めてきました。

横越町の商工業の事業所数と就業人数の推移をみると(下表)、昭和35年と平成13年を比較すると、事業所数は約2.3倍、就業人数は約8倍となっています。これには、農業従事者の減少も大きく関わっていると見られます。

また、昭和55年の国勢調査によると、町内の産業別就業人数では、第1次産業(農林水産業)に代わり第3次産業(サービス業、卸小売業など)が1位となりました。このことは、純農村であった横越村の産業構造が激変したことを意味し、平成8年の町制施行が認められる条件につながりました。

### 主な産業種類別民間事業所数の変遷

年	総数		建設業		製造業		卸小売飲食店		サービス業	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
昭和35年	183	509	34	82	14	45	74	148	58	213
41年	284	1,107	61	269	89	487	77	160	46	146
50年	238	1,518	68	382	22	692	99	254	42	173
61年	302	2,597	80	632	29	1,156	104	421	79	325
平成11年	376	3,786	88	648	35	1,792	130	690	104	524
13年	421	4,077	95	706	39	1,737	140	856	125	660

【横越町史】および『新潟県統計年鑑』から作成

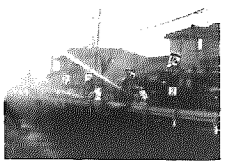
### 姉妹村交流 茨城県美浦村

茨城県稲敷郡美浦村との交流が始まったのは、昭和36年。公民館の青年学級交歓会がきっかけでした。昭和56年には正式に姉妹村盟約を締結。行政・議会、産業団体の交流のみならず、婦人会や中学生など活動の輪が広がっており、交流は多方面にわたり活発になっています。

美浦村は首都圏から70km圏内、茨城県南部に位置し、北部

と東部が霞ヶ浦に面しています。人口は約18,500人。日本屈指の縄文遺跡「陸平貝塚」と日本中央競馬会のトレーニングセンターなどがあり、また、米や野菜、霞ヶ浦の魚介類に恵まれた地域としても有名です。美浦村は、隣接している阿見町と、平成18年1月23日に新設合併し、「霞南市」となりました。

## 横越町消防団出初式 1月9日(日)に行います



1年間の無火災を願って、横越町消防団の出初式を行います。消防車や積載車などが町内をパレードしながら、火の用心を呼びかけるほか、放水訓練も行いますのでご覧ください。

◆パレード 午前10時頃 亀田町消防署横越町分署を出発。中央-沢海-木津-二本木-木津工業団地-駒込-藤山-小杉-東町を通過、午前11時20分頃、横越中学校近くの阿賀用水路に到着。

◆放水訓練 中学校近くの阿賀用水路で、午前11時20分頃から約2分間放水します。

◆問い合わせ 総務課 交通防災係 ☎385-2111 寒さがますます厳しくなるこれからの季節、ガスコンロや暖房器具、タバコなど、火の元には十分ご注意ください。